事例7:フルハシEPO株式会社(技術開発の手法改善と新商品ブランディング)

知財権活用

ブランディング強化

ビジネスモデル検討

■ 知的財産経営実践の概要

解決 したい 課題

技術開発の手法改善と、新商品ブランディング

緑藻類の養殖技術開発と、農業系の技術開発が進み、両者が事業化ステージへと進もうとする中、強みとなる要素(付加価値要素、独自要素など)を把握・強化し、事業推進したい。

ハンズ オン 支援

知財情報を活用した技術開発と、新事業 (食品事業)の販促に向けたブランディングの支援を実施

訪問支援:3回

結果 ・ 成果

先行技術調査のレベルアップ。 BtoC事業のマーケティング感覚やブランディング手法の実施準備が前進。

専門家によるハンズオン支援

- > 課題抽出(1回目)
- ▶ 知財情報を活用した技術開発 手法の方策助言と、特許権補 充の可能性検討(2回目)
- ▶ 販売促進に向けた、ブランディン グの考え方や具体的な検討手 法について助言(3回目)

今後の取組課題

- ✓ 研究開発をさらに進める中で、 必要に応じて特許権の取得を 模索する。
- ✓ 緑藻類の養殖事業におけるブラ ンディングと、その他BtoC事業へ のブランディング手法の展開。

■ 取組の詳細

- 海洋バイオマス事業に着手し、緑藻類の多用 途活用を目標に養殖技術の研究開発を実施。 初期は食品としての市場流通を検討。並行 実施される農業事業と併せ、食品事業が立ち 上がろうとしている状況。
- ・緑藻類養殖と有機水耕栽培について、技術開発にパテントマップ等の先行技術情報を取り入れることの助言と、具体的な文献を提示。また、研究内容を鑑み、追加取得すべき知財権について議論を実施。





・緑藻類の養殖事業を対象に、ブランド構築の考え方や、ブランディングの取組み方策を紹介。従来の木質バイオマス事業(BtoB)とは異なる、食品事業(BtoC)の販路開拓や販売促進のポイントを意識して支援を実施。

■ 企業の声

技術開発における知財情報の活用方策について、従来は類似技術の検索等にとどまっていたが、高度な分析手法の存在を知り、視野が広がった。 ブランディングについては、技術開発に注力する中では培われにくい、消費者の立場に立った感覚や思考が求められると気付いた。

■ 企業概要

業種	製造業(木質バイオマス・プラスチックリサイクル、建築系副産物リサイクル、各種物流機器の製造販売、等)				
住所	愛知県名古屋市中区		URL	http://www.fuluhashi.co.jp/index.html	
創業	1947年12月	従業員数	260人	資本金	3億1,000万円

■ 支援専門家(回数)

支援コーディネータ 中小企業診断士(3) 同行専門家 ブランド専門家(1)